



学校法人松本学園

松本大学

PRESS RELEASE

[発信] 松本大学入試広報室

〒390-1295 長野県松本市新村 2095-1

TEL0263-48-7201 FAX0263-48-7291

<http://www.matsumoto-u.ac.jp>

2026年4月9日

報道機関各位

熊本地震 10 年を前に地震災害に関するアンケート調査を実施

—耐震改修をしていない木造一戸建ての居住者、7割以上が耐震性に不安抱える—

陽春の候、貴社におかれましては、ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。平素より本学に格別のご高配を賜り誠にありがとうございます。

2016年4月14日・16日に発生した「平成28年熊本地震」からまもなく10年を迎えます。熊本地震は内陸の活断層による大地震で、糸魚川—静岡構造線断層帯など数多くの活断層が存在する長野県が熊本地震の教訓から学ぶべきことは多くあります。

松本大学総合経営学部観光ホスピタリティ学科の入江さやか教授（専門分野：地域防災・災害情報）は、熊本地震10年を前に長野県内の19市の住民2,000人を対象に、地震災害をテーマにインターネットによるアンケート調査を実施しました。

調査の結果、▼1981年以前に建てられた「旧耐震」の木造住宅の居住者のうち、耐震改修を「行った」と回答したのは11.6%にとどまる▼耐震改修をしていない木造一戸建て住宅に住む人は、7割以上が耐震性に不安を感じている▼地震対策として「家具・家電などを固定し、転倒・落下・移動を防止している」人は19.6%で全国平均を下回るなど、地震防災対策に課題が多いことが明らかになりました。

貴社の報道を通じて、地域のみなさまに本学の研究成果を広くご紹介いただければ幸いです。

【調査の概要】

- ・タイトル：地震災害に関するアンケート調査
- ・目的

2014年の熊本地震では、多数の木造住宅が倒壊した。国土交通省の報告書によると、1981年以前に建てられたいわゆる「旧耐震基準」の木造住宅のうち、28.2%が倒壊・崩壊、9割以上が何らかの被害を受けた。東京消防庁の調査では、熊本地震では高層マンションのけが人の40.0%、一般住宅の29.2%が室内の家具の転倒・落下・移動によるものだった。長野県の住民がこうした教訓を防災対策に生かすことができているかどうかを明らかにする。

- ・調査対象：長野県内19市の居住者
- ・調査手法：Web アンケート
- ・調査期間：2026年3月19日～27日
- ・回答数：2,000票（内訳は別紙資料参照）

※本報告は「速報」であり、今後データを精査する過程で数値が変わる可能性があります。

【調査結果のポイント】 ※データ・グラフは別紙をご覧ください。

○耐震基準について

我が国の耐震基準は、1981年6月に導入された「新耐震基準」と、2000年6月導入の「2000年基準」で大きく強化された。1981年以前は「旧耐震」と呼ばれており、熊本地震で被害が集中したのも旧耐震の建物であった。「2000年基準」では、阪神・淡路大震災の教訓から木造住宅の地盤に応じた基礎の設計や柱・梁・筋交いなどの接合部を金具で固定すること、偏りのない耐力壁の配置などが義務化された。「2000年基準」が現在の耐震性能の目安となっている。

① 住宅の構造・建築年代

今回の調査では、「全体」の55.3%が2000年以前に建てられた住宅で、このうち1981年以前の「旧耐震」は22.9%だった。全体の6割以上を占める「木造一戸建て」(n=1286)は60.2%が2000年以前で、うち27.4%が1981年以前の「旧耐震」だった。

② 耐震補強実施の有無（木造一戸建て）

木造一戸建てのうち「1981年以前」「1982年～2000年」に建てられた住宅について、2000年以降に「耐震改修（耐震補強）」を行ったかどうか聞いたところ、「行った」は9.5%にとどまった。このうち「旧耐震」の木造住宅でも、「行った」は11.6%にとどまった。8割は耐震性が必ずしも十分とはいえない状況である。

③ 耐震性への不安

上記で耐震改修（耐震補強）を「行っていない」と回答した人に、自宅の耐震性をどう思うか聞いたところ、木造一戸建てでは31.0%の人が「不安である」と回答した。「不安である」「どちらかといえば不安である」をあわせると72.3%となり、多くの人が耐震性に不安を感じながら居住していることが明らかになった。

④ 耐震改修を行わない理由

耐震改修（耐震補強）を「行っていない」と回答した人に、耐震改修をしない理由を聞いたところ、「全体」「木造一戸建て」のいずれも「お金がかかるから（資金が足りないから）」が圧倒的に多かった（全体49.2%、木造54.3%）。木造では、「工法・費用・効果などが適切かどうか判断できないから」（21.0%）、「高齢者世帯で、家を引き継ぐ人（跡継ぎ）がいないから」が18.9%だった。

⑤ 耐震改修を行う条件

耐震改修（耐震補強）を「行っていない」と回答した人に、どのような条件があれば、耐震改修を行うか聞いたところ、「全体」「木造一戸建て」ともに、「自治体からの補助金が増える」ことと回答した人が5割を超えた。次いで、「耐震改修にかかる費用がもっと安くなる」が多かった。「住んでいるままで耐震補強ができる」が、全体で32.6%、木造で34.5%となっているのが注目される。

⑥ 家庭の地震対策

家庭での地震対策は「食料・飲料水、日用品、医薬品などを準備している」が35.6%で最多だが、次いで「特に対策は取っていない」（31.7%）が多い。昨年8月に総務省が全国を対象に実施した「防災に関する世論調査」（※）では、特に対策は取っていないは13.7%と本調査の半分以下であった。一方、「家具・家電などを固定し、転倒・落下・移動を防止している」

は、全国が37.5%だったのに対し、本調査では19.6%だった。このほかのほとんどの項目で全国を下回っており、本県の防災意識には課題がある。

※総務省「防災に関する世論調査」（令和7年8月調査）

<https://survey.gov-online.go.jp/202510/r07/r07-bousai/gairyaku.pdf>

⑦ 家具の固定（地域別）

「家具・家電などを固定し、転倒・落下・移動を防止している」と答えた人は全体で19.6%だった。地域別にみると、伊那市、飯田市、松本市など南信・中信地域で比較的割合が高かった。（回答数100票以上の自治体間で比較）

⑧ 家具を固定しない理由

「家具・家電などを固定し、転倒・落下・移動を防止している」を選ばなかった人に、固定をしていない理由を聞いたところ、「やろうと思っているが先延ばしにしているから」が25.8%で最も多かった。「面倒だから」は14.6%、「お金がかかるから」は12.6%だった。

⑨ 感震ブレーカーの設置

最近の地震での火災の原因は、電気によるものが多い。地震で大きな揺れを感知して電気を遮断して火災を防ぐ装置「感震ブレーカー」の設置が推奨されているが、家庭に「設置されている」は16.7%にとどまった。一方で「感震ブレーカーがどういうものかわからない」が38.9%を占めた。

<考察>

- ・今回の調査では、1981年以前に建てられた「旧耐震」の木造住宅の居住者のうち、耐震改修を「行った」と回答したのは11.6%にとどまった。その一方で、耐震改修をしていない木造一戸建て住宅に耐震性に不安を感じながら居住している人が多数いることが明らかになった。熊本地震における木造住宅の被害を考えると、この状況は早急に改善されなければならない。
- ・1981年以前の旧耐震の木造住宅については、▼耐震診断は無料で、耐震改修にも補助金が出ること▼「工法・費用・効果」に不安がある人は市町村窓口などで相談できること▼住みながら耐震改修を行う方法や一部の部屋だけを耐震化する方法があることなどを積極的に周知し、不安を抱えながら住んでいる住民の背中を押す施策が必要といえる。
- ・令和6年能登半島地震の被災地では、仮設住宅一戸当たりの平均建設費が1450万円（石川県調べ）かかった。ある被災自治体では、災害公営住宅一戸当たりの建設費が2300万～2400万円を見込んでいたが、近年の資材や人件費の高騰により、当初の2倍近くになるおそれがあると報道された（産経新聞2025/6/30）。地震災害の事後の復旧・復興コストと、事前の対策コストを比較検討する必要がある。行政が個人の資産・財産である住宅に補助金を上積みすることは容易ではないと思うが、災害発生後の膨大なコストを考えると、何らかのかたちで事前防災に投資することは有効であると考える。
- ・「家具・家電などを固定し、転倒・落下・移動を防止している」と答えた人は19.6%で、全国を対象とした総務省の世論調査を大きく下回っている。家具の固定を行わない理由は「やろうと思っているが先延ばしにしているから（25.8%）」が最も多い。裏を返せば家具固定の必要性は認識されているので、地域における「きっかけづくり」が重要である。

- 家庭での地震対策はほとんどの項目が全国の値を下回っており、一方で「特に対策は取っていない（31.7%）」が全国を大きく上回っている。防災意識に課題があると言わざるを得ない結果となった。
- 熊本地震や能登半島地震のような活断層による内陸直下地震はいつ起きても不思議ではない。これらの災害の教訓に改めて目を向け、家庭や地域の防災力の向上につなげていく必要がある。

【本調査に関するお問い合わせ先】

松本大学 総合経営学部 観光ホスピタリティ学科 教授 入江さやか
メール sayaka.irie@t.matsu.ac.jp 電話 090-4772-6650



松本大学

地震災害に関する アンケート調査（速報）

松本大学 総合経営学部
観光ホスピタリティ学科 教授
入江さやか

sayaka.irie@t.matsu.ac.jp

熊本地震で麦畑に出現した断層
(熊本県益城町、2016年4月 入江撮影)

平成28年熊本地震の概要

【前震】平成28年4月14日 21時26分 M6.5 熊本県熊本地方

震度7：益城町

【本震】平成28年4月16日 1時25分 M7.3 熊本県熊本地方

震度7：益城町、西原村

震度6強：熊本市、菊池市、宇土市、宇城市、合志市、
大津町、嘉島町、南阿蘇村

死者 275人（直接死50人、災害関連死225人）

重軽傷者 2,739人

住家被害 全壊 8,657棟 半壊 34,489棟 一部破損 55,239棟

計 198,385棟

熊本県「熊本地震10年特設サイト」より引用

<https://www.pref.kumamoto.jp/site/h28kumamoto-earthquake/>

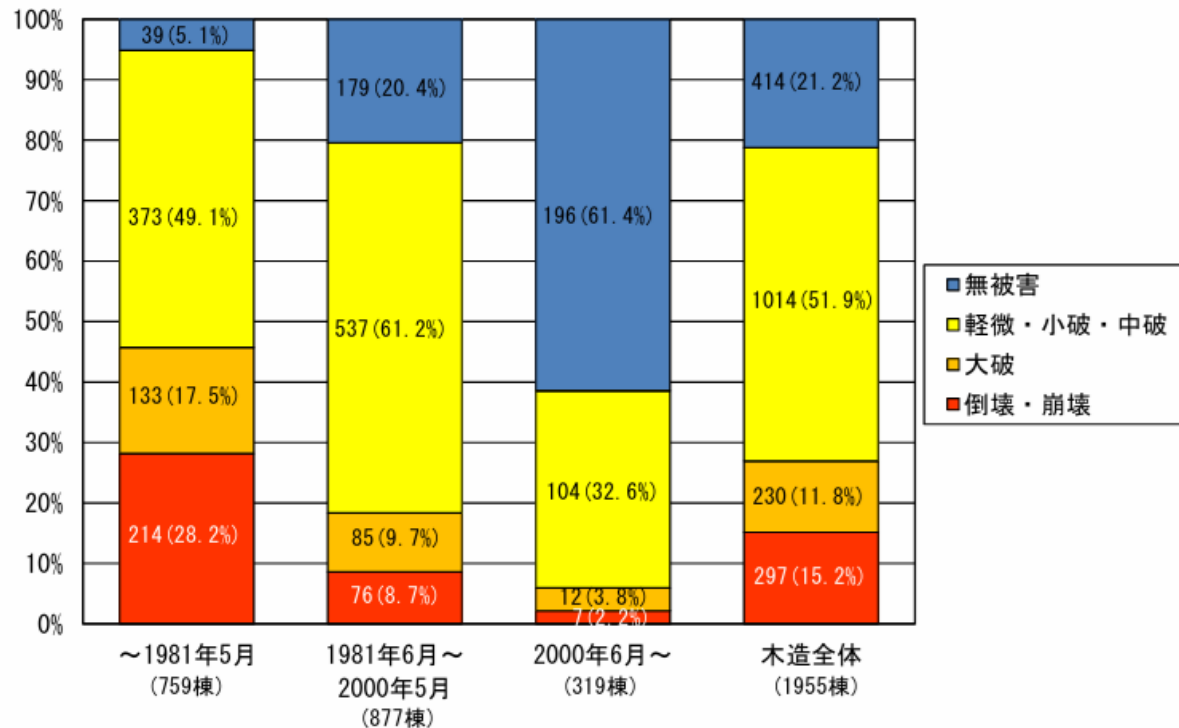


熊本地震で落ちた旧阿蘇大橋
(熊本県南阿蘇村、2026年2月 入江撮影)

調査の背景（熊本地震の教訓①）

「旧耐震」の木造住宅に被害が集中

木造の建築時期別の被害状況



国土交通省資料より引用

<https://www.mlit.go.jp/common/001287789.pdf>

熊本地震では、多数の木造住宅が倒壊した。国土交通省の報告書によると、1981年以前に建てられた「旧耐震基準」の木造住宅のうち28.2%が倒壊・崩壊、9割以上が何らかの被害を受けた。

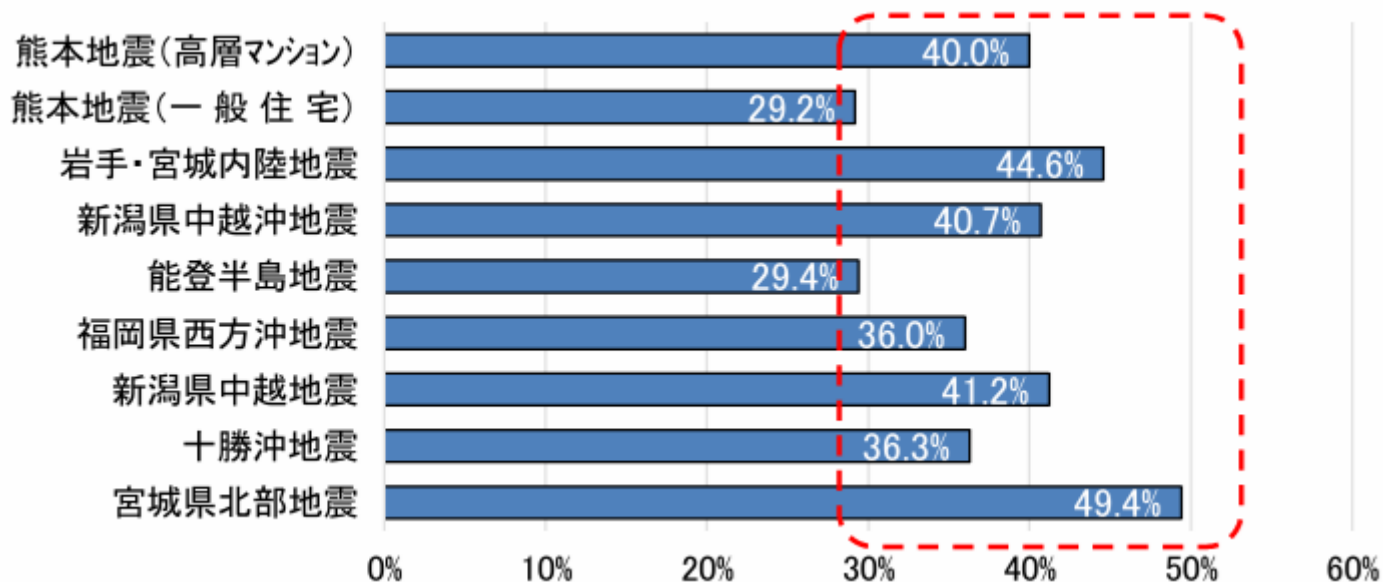
一方、2000年の建築基準法改正以降の改正以降に建てられた木造住宅のうち、倒壊・崩壊は2.2%にとどまり、61.4%が「無被害」であった。鉄筋コンクリート（RC）造の被害も、1981年以前の旧耐震基準で建てられた建物に集中した。

「旧耐震」の建物の耐震化は、地震による人的・物的被害を減らすために不可欠である。

調査の背景（熊本地震の教訓②）

家具類の転倒・落下・移動による人的被害

近年発生した地震における家具類の
転倒・落下・移動が原因のけが人の割合



東京消防庁の調査によると、近年の地震におけるけが人の3割から5割が、室内の家具の転倒・落下・移動によるものだった。熊本地震では高層マンションのけが人の40.0%、一般住宅の29.2%が家具類が原因となっている。

家具の転倒・落下・移動は、負傷だけでなく、火災の原因（タバコやストーブが家具の下敷きになるなど）や、避難の障害になるおそれがある。人的被害を減らすために家具の固定は極めて重要である。

東京消防庁資料より引用

<https://www.tfd.metro.tokyo.lg.jp/content/000010472.pdf>

調査概要

- **調査目的**：長野県住民の地震災害に対する意識、
家庭における防災対策の実施状況を調査する。
- **調査対象**：長野県の19市の居住者
(楽天インサイトに登録しているアンケートモニター)
- **調査手法**：Webアンケート
- **調査期間**：2026年3月19日～27日
- **回答数**：2,000票（内訳は右記の通り）

※本報告は「速報」であり、今後データを精査する過程で数値が
変わる可能性があります。

全体	2000人
長野市	500人
松本市	300人
上田市	200人
佐久市	100人
安曇野市	100人
飯田市	100人
塩尻市	100人
伊那市	100人
千曲市	50人
茅野市	50人
須坂市	60人
諏訪市	50人
岡谷市	50人
中野市	40人
小諸市	50人
駒ヶ根市	40人
東御市	40人
大町市	40人
飯山市	30人

【回答者の属性】 (n=2,000)

●年齢

20代以下	2.4%
30代	8.4%
40代	16.4%
50代	28.7%
60代	28.7%
70代以上	15.6%

平均年齢 56.66歳
最小 16歳
最大 92歳

●性別

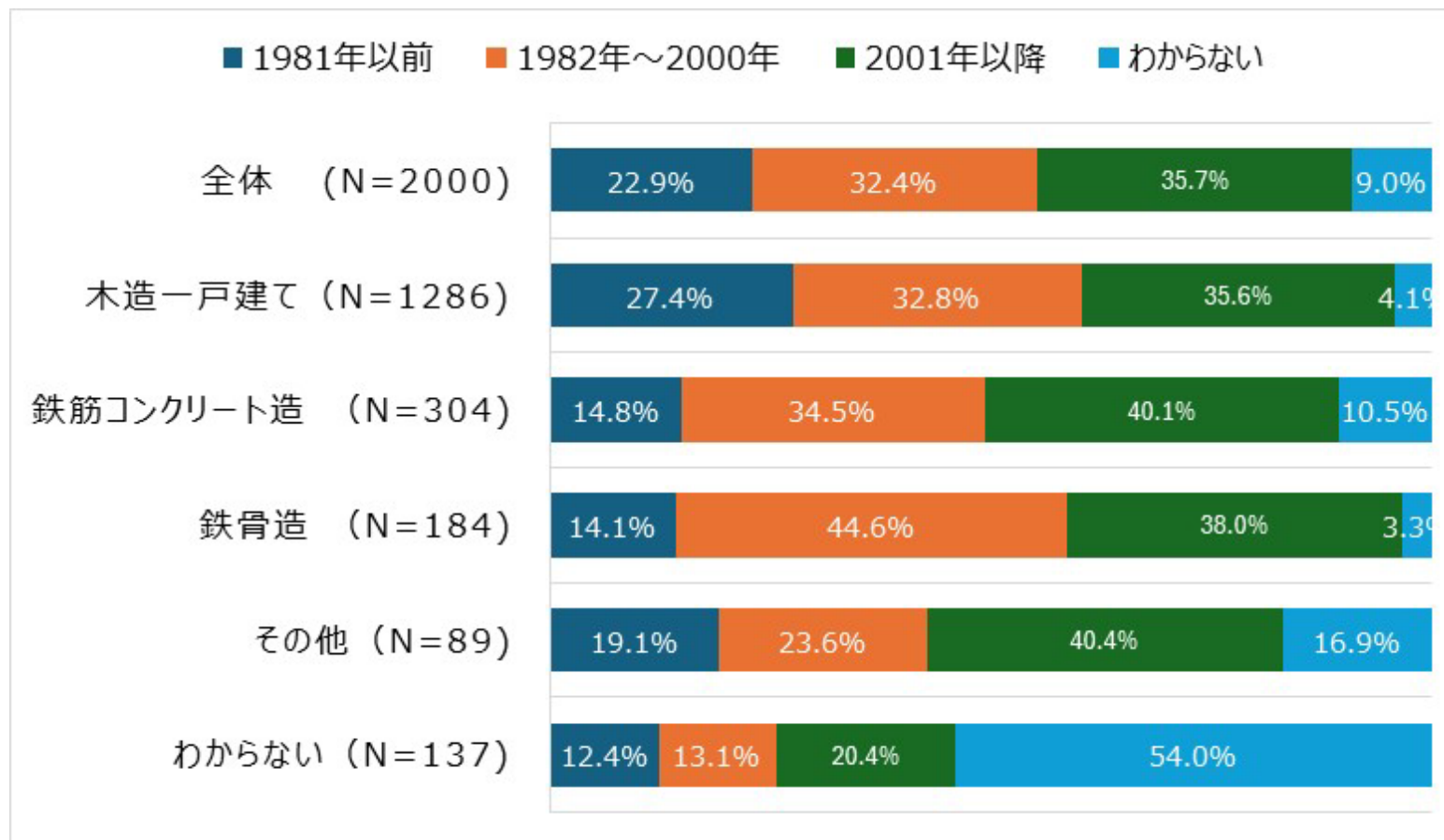
男性	67.4%
女性	32.6%

●職業

農業	2.8%
林業	0.2%
漁業	0.0%
自営業	8.7%
会社員	40.9%
公務員	5.6%
団体職員	2.9%
主婦・主夫	9.4%
生徒・学生	0.4%
その他：	7.4%
無職	22.0%

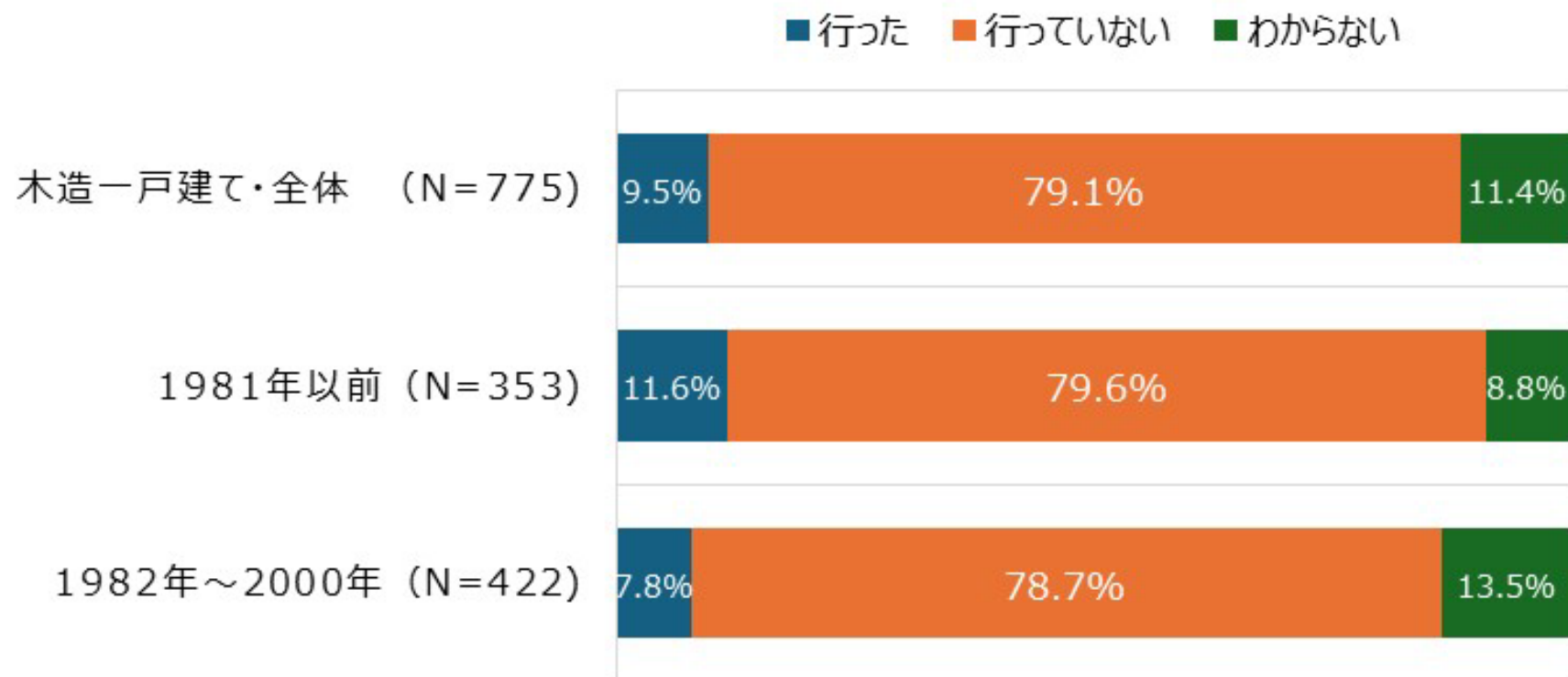
【1】住宅の構造・建築年代

「全体」の55.3%が2000年以前に建てられた住宅 1981年以前の「旧耐震」は22.9%
全体の6割以上を占める「木造一戸建て」は60.2%が2000年以前 27.4%が1981年以前の「旧耐震」



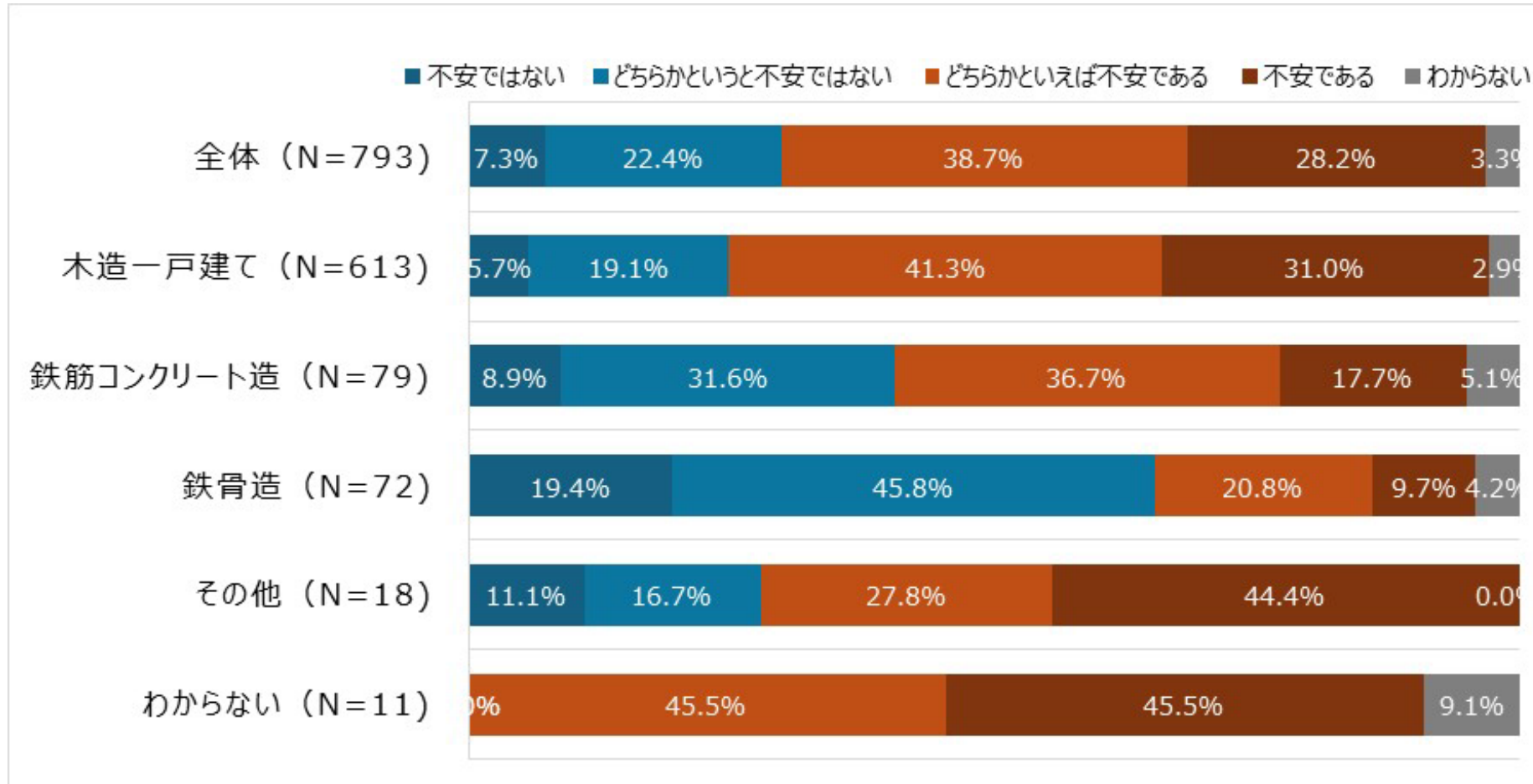
【2】耐震補強実施の有無（木造一戸建て）

木造一戸建てのうち「1981年以前」「1982年～2000年」に建てられた住宅について、2000年以降に「耐震改修（耐震補強）」を行ったかどうか聞いたところ、「行った」は9.5%にとどまった。このうち「1981年以前」の旧耐震基準の木造住宅でも、「行った」は11.6%にとどまり、約8割は耐震性が必ずしも十分とはいえない状況である。



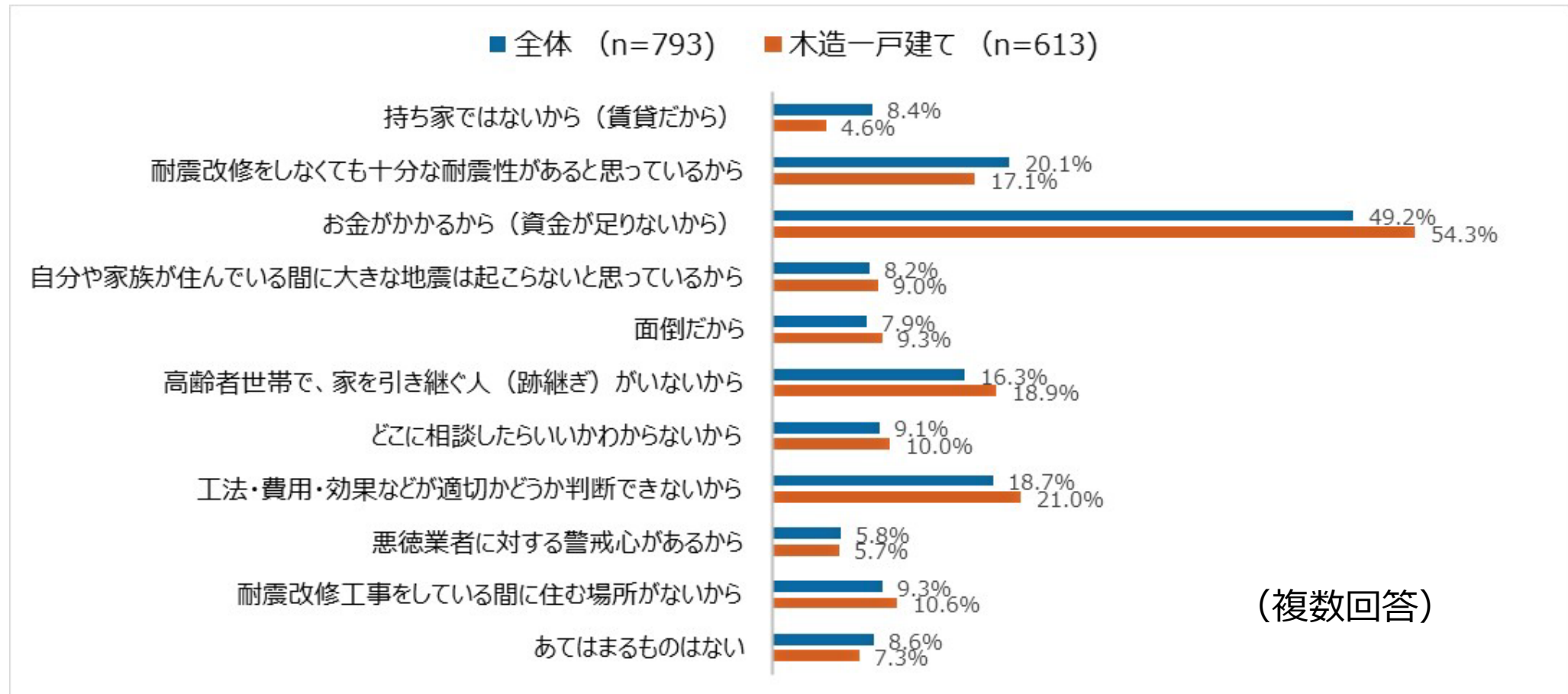
【3】 自宅の耐震性への不安

耐震改修（耐震補強）を「行っていない」と回答した人に、自宅の耐震性をどう思うか聞いたところ、木造一戸建てでは「不安である」が31%、「不安である」「どちらかといえば不安である」をあわせると7割以上が耐震性に不安を感じていた。



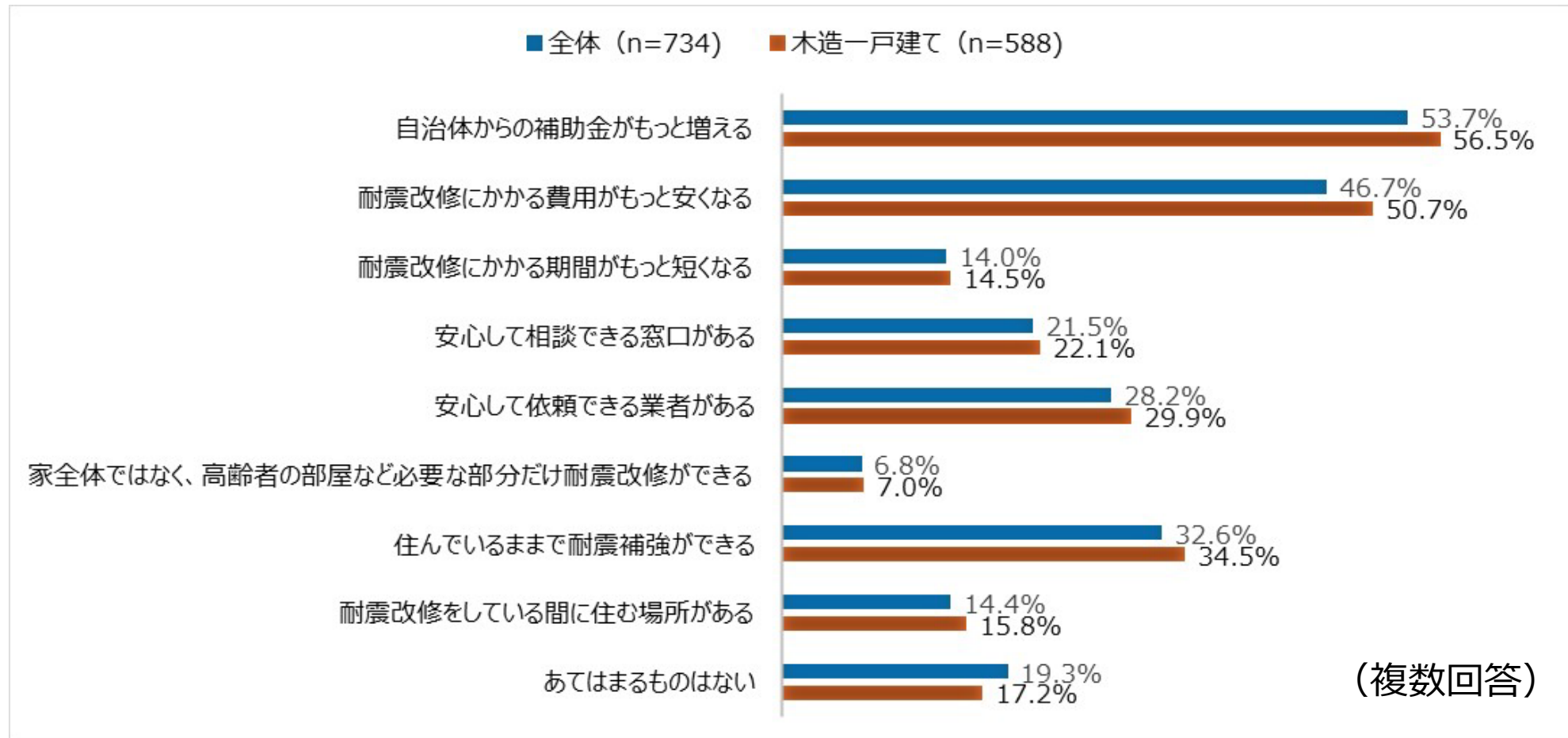
【4】耐震改修（耐震補強）をしない理由

耐震改修（耐震補強）を「行っていない」と回答した人に、耐震改修をしない理由を聞いたところ、全体、木造一戸建てともに「お金がかかるから（資金が足りないから）」が圧倒的に多かった。木造では、「工法・費用・効果などが適切かどうか判断できないから」（21.0%）、「高齢者世帯で、家を引き継ぐ人がいないから」が18.9%となった。



【4】 どのような条件があれば、耐震改修を行うか

耐震改修（耐震補強）を「行っていない」と回答した人に、どのような条件があれば、耐震改修を行うか聞いたところ、全体、木造一戸建てともに「自治体からの補助金が増える」が5割を超え、次いで「耐震改修にかかる費用がもっと安くなる」が多い。「住んでいるままで耐震補強ができる」も3割を超えた。

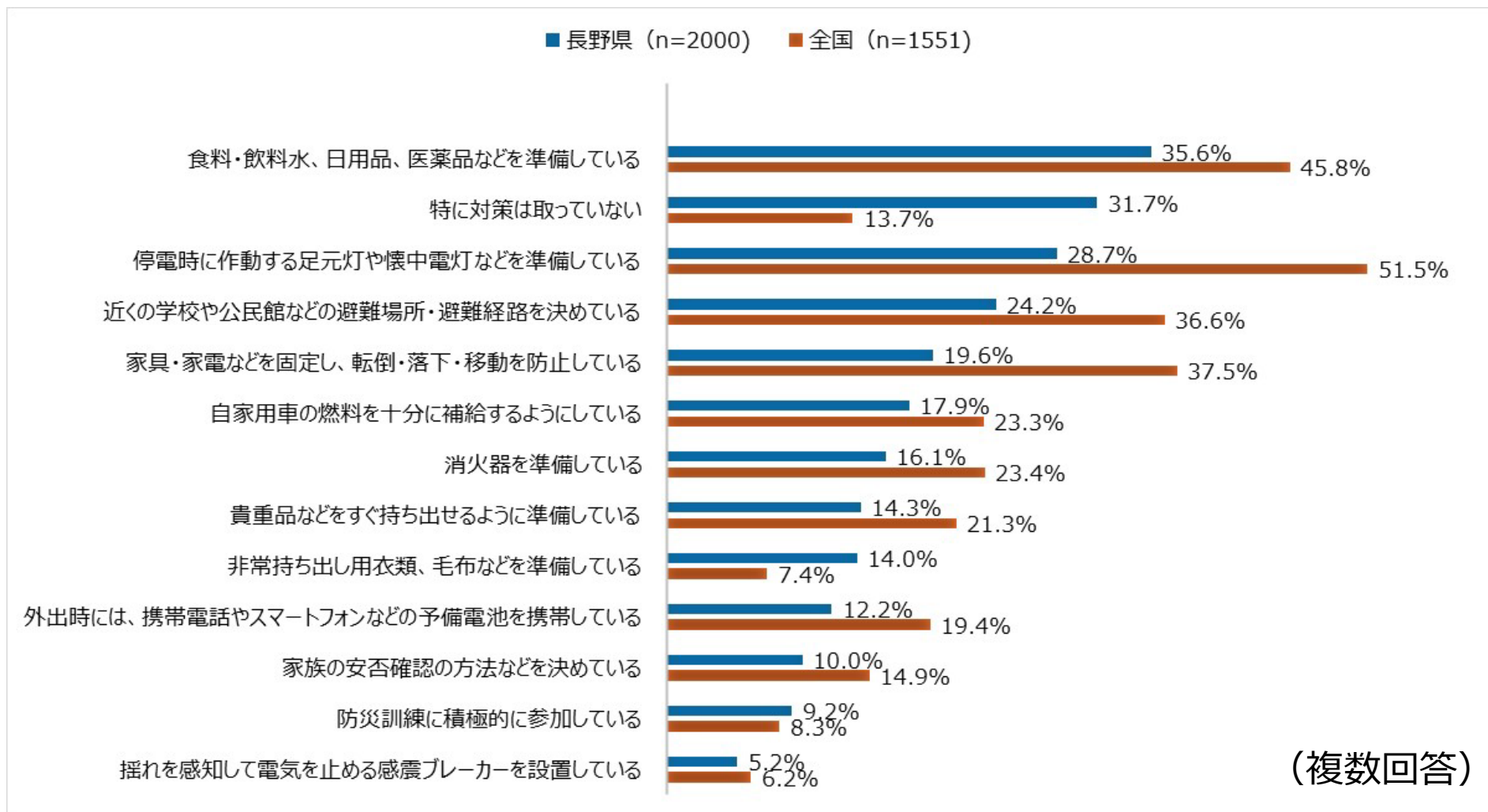


【5】家庭の地震対策

※総務省「防災に関する世論調査」（令和7年8月調査）

<https://survey.gov-online.go.jp/202510/r07/r07-bousai/gairyaku.pdf>

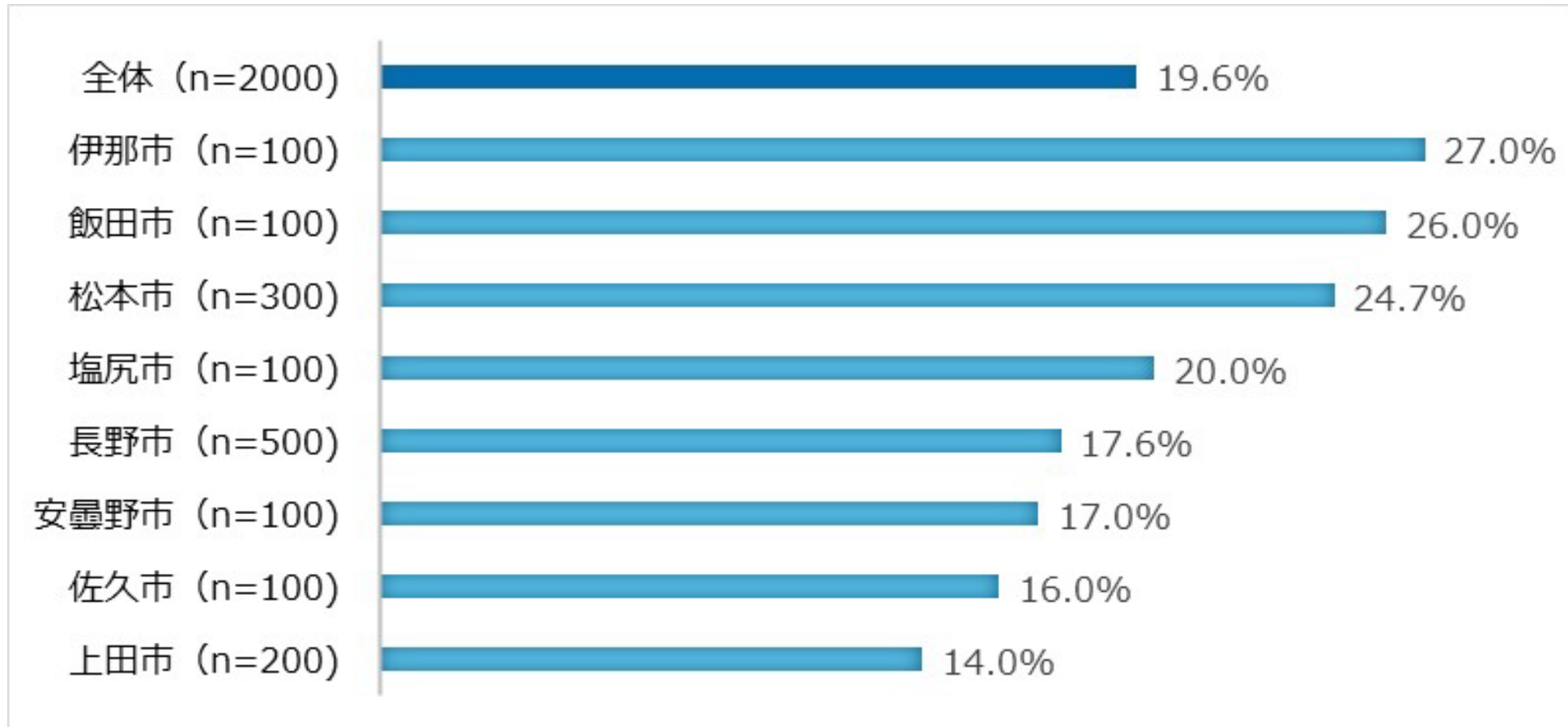
家庭での地震対策は「食料・飲料水、日用品、医薬品などを準備している」が35.6%で最多だが、次いで「特に対策は取っていない」（31.7%）が多い。ほとんどの項目で全国平均（※総務省世論調査）を下回っている。



(複数回答)

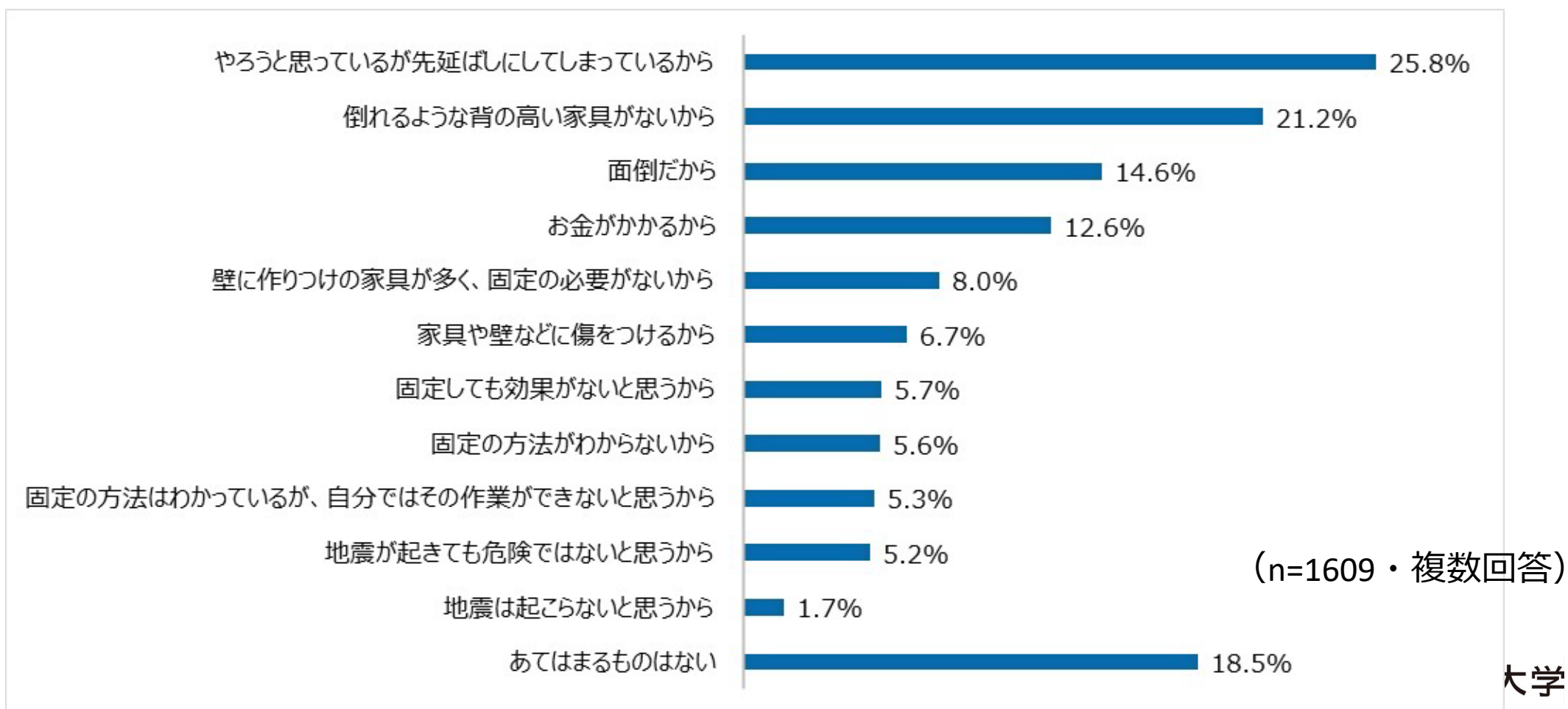
【6】家庭の地震対策（家具の固定）

「家具・家電などを固定し、転倒・落下・移動を防止している」と答えた人は全体で19.6%だった。地域別に見ると、伊那市、飯田市、松本市など南信・中信地域で比較的割合が高かった。（回答数100票以上の自治体で比較）



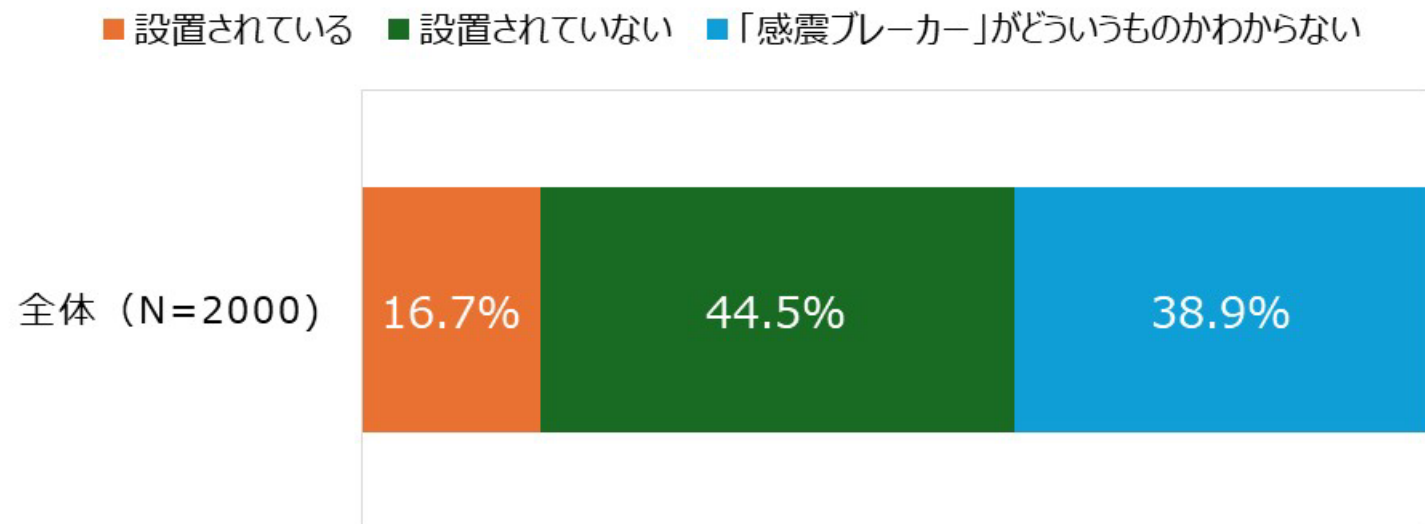
【7】家具を固定しない理由

「家具・家電などを固定し、転倒・落下・移動を防止している」を選ばなかった人に、固定をしていない理由を聞いたところ、「やろうと思っているが先延ばしにしているから」が25.8%で最も多かった。「面倒だから」は14.6%、「お金がかかるから」は12.6%だった。



【8】 感震ブレーカーの設置

最近の地震での火災の原因は、電気によるものが多い。地震で大きな揺れを感知して電気を遮断して火災を防ぐ装置「感震ブレーカー」の設置が推奨されているが、家庭に「設置されている」は16.7%にとどまった。一方で「感震ブレーカーがどういうものかわからない」が38.9%を占めた。



簡易型の感震ブレーカー
(入江撮影)

まとめ

- 全体の6割以上を占める「木造一戸建て」は60.2%が2000年以前（うち**27.4%**が「旧耐震」）
- 「旧耐震」の木造住宅で、耐震改修を「行った」は**11.6%**。約8割は耐震性が必ずしも十分といえず。
- **耐震改修をしていない木造一戸建ての居住者の7割以上が耐震性に不安を感じている。**
- 耐震改修をしない理由は**経済的理由**が圧倒的に多い。
- 耐震改修の条件は「補助金の充実」「費用が安くなる」が多い。「住んでいるままで耐震補強ができる」が**3割超**である点も注目される。
- 家庭の地震対策は、「**特に対策は取っていない**」が**31.7%**。ほとんどの項目で全国平均を下回る。
- 「家具の固定」の割合は、南信・中信で高い傾向。家具を固定しない理由は「やろうと思っているが先延ばし」が25.8%で最も多い。
- 地震で大きな揺れを感知して電気を遮断して火災を防ぐ「**感震ブレーカー**」の設置は**16.7%**

「旧耐震」の木造住宅で耐震性に不安を感じながら耐震改修に踏み切れない人や、家具の固定の必要性を認識しながら先延ばしにしている人の「背中を押す」施策が必要。